

20140327 U30 コミュニケーションスキル研究会議事録
「都市と地方の交流促進事業」

日 時：2014年3月27日（木）19:30-22:00

場 所：東京/池袋「バー クオーレ」

発表者：大家浩臣さん（慶応義塾大学法学部政治学科）

インタビュアー：福田一輝（U30 コミュニケーションスキル研究会会長、大学生）

参加者：参加者 12人（発表者除く）

（大学生、会社員、会社経営、大学教員、NPO法人理事長、
社会保険労務士、行政書士・司法書士など）

1. まずは自己紹介をお願いします

社会起業に足を突っ込んでいます。「ふるさとTV」の大学生幹事もしています。ふるさと情報が見える化を目指しています。自治体のHPへすぐに飛べるようにしたり、特産品の検索エンジン機能があります。また、地域振興と事業創出を目指す「Agreen」の活動も行っています。さらに、大学生シンクタンク「RHO」も立ち上げました。現在は20～30人のグループです。政策提言を目指しています。

「RHO」は若い人から見たおかしいと思うことをとことん突き詰めていきたいです。部門ごとの活動も行っています。勉強部門は社会問題に関心を持ってもらうためのものです。シンクタンク部門は現場に出るフィールドワークも行っています。

「RHO」は3つの頭文字を合わせたものです。リソルジメントは復興、再興、ヒューマニティは人間らしさ、オプティマイゼーションは最適化です。日本社会は少子高齢化が進んでいます。その中で、選挙ですが年寄りの投票率ばかりが高い状況です。若い人たちが声を上げなくてはならないです。投票率向上の仕組みとしては、若者の結束も大切です。これが、RHO という団体の使命です。

主な事業は「少子高齢化」、「食と農」、「子どもの居場所作り」、「コミュニティハウスの提言」、「農業コンサルタントの普及」です。農業コンサルタントは気仙沼で活動しています。また、地域経営戦略も行っています。地方と都市の交流促進をはかるものです。若者の定住を促すために、地域起こし協力隊をもっと活用できるようにしたいと考えています。地域起こし協力隊も若者は都市へ3年で帰ってしまうというのが現状です。都市と地方の架け橋が必要です。そこで、地方に都心の経営者志向者を紹介することを考えています。ゼロからイチはたいへんですが、イチを十にすることはそれほどたいへんではありません。地方の事業を都市の若者が承継することのサポートを考えています。そのためには、情報を循環する必要があります。地域おこし協力隊にて行ったり来たりできるような仕組みを作りたいと考えています。

2. 活動を行うにあたっての問題意識はどのようなものでしょうか？

問題意識ですが、地方に若者がいないというのが第一です。私は都会に住んでいますが、故郷のある人がうらやましいです。都会に住んでいては哲学がありません。人間が敵わない自然がないということです(ウパニシャット哲学も夜空を眺めて生まれたと考えています)。先端が壊死すると根幹も壊死していきます。現在、日本社会で起きていることです。

3. ビジョンはどのようにお持ちですか？

ビジョンですが、いかに地方にお金を落とすかです。地方には地方の経済があるという方もいます。しかし、地方にお金が落ちないと地方に住むことはできません。地方には知る人ぞ知る物があります。たとえば、能登地方であれば天然のしいたけです。これを、都市に住む人に見える化していく必要があります。しかし、地方にそのノウハウはありません。このノウハウを都市から伝えていく。これがやらねばならないことです。

4. 活動をいかに始めているのでしょうか？

活動をいかに始めるかですが、一步を踏み出すきっかけが大切です。そのためには出会いが必要です。私はオーケストラでの活動もしています。そこでの経験ですが、有名人に直談判をしてイベントを組むという、すごい人がいます。その人に言われていろいろな手伝いをしました。たとえば、国会のパーティなどです。これが私の根っ子になっています。また、人に誘われたら行ってみることです。これははずれかとも思ったとしてもです。場数を踏んでみると当たりかはずれかわかるようになります。面の皮も厚くなっていきます。

一步踏み出した後ですが、学生の場合は、いかに大人を介在させるか、いかに大人を利用するかです。そのためには大人の活動に首を突っ込む必要があります。地方自治体に学生が提言を持って行っても相手にしてもらえません。そこで、大人を介在させ、利用する必要があります。地方自治体の意思決定は首長、企画担当課長が行っています。また、議会の有力な人をおさえなくてはなりません。とことん根回しの世界です。

5. 20代へのメッセージをお願いします

まず就職活動についてですが、どれだけ大人とお話ししたことがあるかが大切になります。大人との会話に慣れているかどうかです。これは場数を踏まないといけません。とはいえ、大人の考えを完全に理解する必要はありません。世代間ギャップがこれを阻んでいます。しかし、大人の考えを理解しようとするはすべきです。また、仲間が大切です。自分だけでできることは限られています。いろいろな得意分野の人がいます。たとえば、論文の作成、エッジのある言葉の考案、WEBサイトの制作などです。チームを組んでいるからできることがあります。周りに支えられているからできることがあります。

最後に、米国の鉄鋼王、アンドリュー・カーネギーのお墓に彫られている言葉です。「自分より賢き者を近づける術知りたる者、ここに眠る」。

以上